

# 日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

## 研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年11月17日

氏名 (フリガナ)	鶴川 美穂 (ウカワ ミホ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2015年10月11日 (日) ~ 10月17日 (土)
所属機関名 身 分	湘南鎌倉総合病院 師長

アメリカ短期看護研修では大学病院やマグネットホスピタル認証病院、高齢者施設など、レクチャーや施設見学をした。

アメリカの看護教育制度や看護師免許取得・更新や医療保障システムには、日本との大きな違いがあった。看護師免許には更新制度があり、生涯継続して看護教育を受けている。また看護業務が分業化しており、合理的思考で経済的にも効率よく、よりハイレベルな看護を提供していた。ほとんどの病院で、採血は検査技師、体位変換や清拭、バイタルサイン、血糖測定など有資格者のナースエイドが実施し、患者移送や移乗には専用のリフトや機材が備わっていた。看護師は病態のアセスメントや患者家族、医師との治療方針や看護計画について十分に話し合い、患者が納得して治療や看護が受けられるように同意や調整の役割を担っていた。看護師のみならず、それぞれの役割りを担う病院職員の人員数も豊富であった。

薬剤管理では、各部署に配薬の機器が設置され、持ち出した看護師がIDを入力し認証するシステムで責任の所在が明確となっている。日本のように、お互いが忙しい業務の合間での看護師同士によるダブルチェックの業務が大いに省かれていた。

マグネットホスピタル認証を取得した病院では、看護の質が高く求められていた。マグネットホスピタルとは、「磁石のように看護師を引きつける病院」に関する共通の特性を備えた病院に対し、「マグネット・ホスピタル」という称号が与えられる認定制度である。認定審査には多額のコストと時間、質の高い看護実践を要し、さらに厳しい審査に合格し認証を取得している。認証を受けている病院では、看護師在職率や在職意識の向上、患者安全面、看護の質、病院管理などさまざまな改善がなされていた。各病棟には、マグネットリーダーという役割のみをこなす看護師が配置されていた。各部署での質改善に特化した業務のみを実施しており、マグネットホスピタルに対し、誇りと自信にあふれスタッフの教育・指導にあたっていた。

現地で働く日本人看護師による、アメリカと日本の看護教育や臨床での看護体験談についての説明もあり、アメリカと日本の看護について、より深く理解することもできた。